

生活支援体制づくり協議体（地域包括支援センター元浜担当圏域レベル）開催報告書

1 開催日時	令和7年8月8日（金） 10時00分 ～ 11時30分
2 開催場所	曳馬協働センター 303会議室
3 参加者	18名 委員8名（曳馬5名、北地区3名）、関係機関10名
4 協議の内容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 元浜圏域生活支援体制づくり協議体会長 ・新規委員・関係機関 紹介</p> <p>3. 協議事項</p> <p>(1) 前年度の振り返り・協議体について再整理 浜松市社協</p> <p>(2) 包括の相談業務から感じていること 社会的孤立の共通理解とかかわり ～ともに支え・支えられる町へ～ 地域包括支援センター元浜 センター長</p> <p>(3) グループワーク</p> <p><u>①包括・市社協の報告を受けての感想</u></p> <p><u>②孤立しているのはどんな人 そのような方に対して対応した事、耳にした事</u></p> <p><u>③協議体ではどのような事ができるのか？</u></p> <p>4. 閉会 元浜圏域生活支援体制づくり協議体 副会長</p> <p>5. 事務連絡 ・第2回元浜圏域生活支援体制づくり協議体会議 日時：令和7年11月頃 場所：曳馬協働センター</p> <p>8. 閉会 元浜圏域 生活支援体制づくり協議体 副会長</p>

5 今後の見通し・ 必要な対応

グループワークについて

①包括・市社協の報告を受けての感想

【曳馬】

民生委員：活動上でも独居高齢者に関わることが増え、現実に体感している。

- ・60代は現役世代で仕事をしている方も増え時代が変わってきており、地域との付き合いが難しい方も増えている。民生委員自体の人材不足も課題。

シニアクラブ：仕事や役割を辞めてから人づきあいが減り体調が急変してしまう人が多い。

- ・自分のこともしなくなってしまう人もあり、家に閉じこもってしまう人も少なくない

自治会：地域の行事にて顔を合わせる機会が減少している。

- ・地域のイベントなど、みんながいる所に出てこないと交流・つながる機会がない
- ・自治会でも把握できないような方が孤立している印象。

②孤立しているのはどんな人 そのような方に対して対応した事、耳にした事

【曳馬】

- ・地域で仲間を集めて畑をやっている人がいる。代表の方が孤立している方々に役割を与える事で参加者が積極的に参加している。集うきっかけを作る事も大切。
- ・時代の変化の影響で引っ越してきた方でも近隣住民への挨拶は少なく、自治会活動などにも参加しない方はどうしても孤立傾向にある。お祭りやイベントを周知して自治会行事に参加してもらうようにしている。
- ・学習支援ボランティアなどで活躍している方は孤立やフレイルから遠ざかっている気がする。
- ・皆がなぜボランティアに参加しないのか？ボランティアや地域の役割を担う人は孤立化しにくいのでは
- ・人材募集しているが退職や役職から外れた方など地域の人材を把握する事が難しい。
- ・孤立しているのは高齢者だけではない。様々な年代の方に周知する必要がある。

【北】

- ・地区社協でサロンの居場所を複数地域で展開しているが、参加者が限られてしまっている。関係者は少しでも出てくる人を増やしたいと考えているが難しい現状。
- ・独居高齢者に関して危機感を持っており、お茶会や麻雀の集いの場を作り、男性の参加者もいる。自治会としても地域のどういう層に働きかけるかを模索中。
- ・自治会では高齢者夫婦世帯などで、どちらか亡くなった場合、おくやみを兼ねて様子を見に行っている。

③協議体ではどのような事ができるのか？

【曳馬】

- ・行事やイベント開催の参加を促す。参加者の孤立を予防すると共に、孤立している方に役を与え、活躍の場を作る。⇒新たな物ではなく、今あるものへの参加や協力も。
- ・情報を周知し、意識を高め、地域の役やボランティアに参加してもらうきっかけを作る。
- ・ボランティアを入りやすくすること、地域全体のボランティア意識を高めることが必要

- ・自身も子ども会役員をやったのが地域活動に関わるきっかけであった、地域の役割を担うとその後にもつながっていく
- ・中学生の参加⇒日常的な活躍の場。ボランティア講座を仕組みにしていく仕掛け
親世代も関わるきっかけができる。中学生に関わる人のつながりを持つ機会になるのでは
- ・シニアクラブの中での助け合いが必要。見守りやお出かけ、互助的な小さなコミュニティづくり
(地域の中での見守りネットワークにも発展)
- ・ボランティア参加の意義
☆参加者自身の健康増進、フレイル予防 ☆地域課題への気づきを持つ人の広がり
- ・地区社協だよりとの連動も有り。

【北】

- ・地域の活動に出てきていない人を誘いたい。
⇒1. 挨拶を通じたコミュニケーションから関係作りをする。
2. 魅力がある集まりを増やす⇒地域の方に興味がある内容を聞いてみたい。
- ・家事支援活動についての ニーズの発見方法、つなぎ方について更に検討
- ・協議体の活動のアピール⇒中部協働センターとの連動なども！
- ・近隣の小中高とのコラボで若い世代にも地域の事を知ってもらいたい。

【共通して考えられる事】

(1) 担い手問題

- ・両地域で高齢化が進む中で、60代以上も就労している方も多。様々な役が担い手不足。
- ・地域で退職した方などの人材把握が難しい。
- ・情報を周知し、意識を高め、地域の役やボランティアに参加してもらおうきっかけを作りたい。

(2) 集い場

- ・自治会(シニアクラブ)や地区社協で集い場を作っているが参加者が限られている。
- ・高齢者だけでなく様々な世帯が孤立している。年齢を問わない居場所が必要？
- ・ボランティアなど運営者の活躍のきっかけにもなる。
- ・魅力がある集まりを増やしたい。
- ・小中高や協働センターと連携したい。
- ・既存の活動へ参加したい。

(3) 広報・周知関係

- ・協議体(関係団体)の活動をアピールしたい。
- ・自治会や地域のイベントなどを周知したい。
- ・小中高生にも地域の事を知ってもらいたい。

【今後の見立て】

第二回協議体会議では、本会議で収集した情報を報告。

令和8年度での活動開始に向け、元浜圏域協議体で活動内容を検討する。

